

アブダビ国際石油展示会・会議（ADIPEC）2020
梶山経済産業大臣 基調講演

2020年11月9日
資源エネルギー庁

- アッサラーム・アライクム（こんにちは）。日本の経済産業大臣の梶山弘志です。
- スヘイル・アル・マズルーイ・エネルギー・インフラ大臣閣下、スルタン・アル・ジャーベル・アブダビ国営石油会社 CEO 兼産業・先端技術大臣閣下、お集まりの各国からの参加者の皆様、ADIPEC にお招きいただき、演説ができることを大変光栄に思います。
- まずは、本年の ADIPEC の開催をお祝い申し上げるとともに、新型コロナウイルスによる困難な状況の中で、本会議の実現にご尽力なされた、マズルーイ大臣、ジャーベル CEO をはじめとする関係者の皆様に心から敬意を表します。
- ADIPEC は石油・ガス分野における極めて重要な国際展示会・会議であり、我が国企業も長年にわたって出展してまいりました。また、2015年以降は毎年、「日本パビリオン」を設置し、本年は、「宇宙」をテーマとした展示を行っております。
- 今、世界規模で脱炭素化の流れが勢いを増しています。我が国でも、先月末、菅総理が2050年カーボン・ニュートラルの実現を目指すことを宣言しました。化石燃料の利用においても、気候変動対策に取り組んでいかなければなりません。
- アジアを中心に、今後も世界におけるエネルギー需要が拡大していく中で、我が国としては、途上国における化石燃料のクリーンな使用を支援していきたいと考えています。
- こうした観点から、我が国は、先月開催された LNG 産消会議において、LNGのバリュー・チェーン全体でカーボン・ニュートラルを積極的に実現していくことを表明しました。
- また、我が国は、化石燃料から生じるCO₂を再利用するカーボンリサイクルにおいても世界をリードしていきます。カーボンリサイクルは、サウジアラビアが議長国を務めた、9月のG20エネルギー大臣会合でも合意された「循環炭素経済（CCE）」と同様の考えです。各国の産学官におけるカーボンリサイクルの取組が大きくなうねりとなり、本格化しつつある中、日本は「経済と環境の好循環」の実現のため、カーボンリサイクルというイノベーションを追求していきます。
- 水素についても、産油国を含めた国際サプライチェーンの構築を含め、水素社会の実現に向けた具体的な取組を引き続きリードしていきます。さらには、新たに燃料アンモニアにも着目しており、官民での議論を通じて、石炭火力発電所でのアンモニア混焼によるCO₂削減を目指しているところです。
- こうした取組を通じて、気候変動対策、エネルギーの安定供給の確保、持続的な経済成長を実現する「責任あるエネルギー政策」を、我が国のみならず、アジアを中心とする途上国にも展開していきたいと考えています。

- 他方、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞により、本年4月には米国のWTI原油の先物価格が史上初のマイナスとなりました。その後、OPEC プラスによる大規模な協調減産、世界経済の回復への期待を受け、エネルギー市場は徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、未だ新型コロナウイルスの感染拡大は収束しておらず、エネルギー市場への影響は続いています。
- こうしたエネルギー市場への影響は、上流分野への投資の減少につながっています。IEAによれば、本年のエネルギー投資全体は前年比18パーセントの減少、特に石油・ガス供給への投資は前年比30パーセント程度の減少となっています。
- 一方で、経済成長の著しいアジアを中心に、今後もエネルギー需要は拡大していく見通しであり、上流分野への投資が減少し、中長期的なエネルギー供給の逼迫を生み出すことは避けなければなりません。
- グローバルなエネルギー安全保障強化に向け、市場の安定とサプライチェーンの維持・強化、さらには、将来に向けた安定的な投資の確保のため、本日お集まりの皆様をはじめ、産油国と消費国がより一層協力・連携していく必要があることを申し上げたいと思います。
- 最後になりますが、ADIPEC での一連のセッションを通じて、世界各国からの参加者の皆様が見解やアイデアを交換し、脱炭素化という課題の克服と、長期的なエネルギーの安定供給に関する具体的な議論がなされ、その成果が広く発信されることを期待しています。
- 新型コロナウイルスの感染拡大が収束した暁には、皆様と直接お会いできることを楽しみにしております。どうもありがとうございます。シュクラン・ジャジーラン。